

2023年7月23日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 7 「まことの信仰」

詩編32：8～11、ガラテヤ2：20

**問20** それでは、アダムを通して、すべての人が墮落したのと同様に、キリストを通してすべての人が救われるのですか。

**答** いいえ。まことの信仰によってこの方と結び合わされ、そのすべての恵みを受け入れる人だけが救われるのです。

すべての人が救われてほしいと多くの人々が期待するでしょう。すべての人を救うのが神さまの愛ではないか。しかし信仰問答はそうは答えません。「信仰によって救われる」というのです。主イエスも言われます。「あなたの信仰があなたを救った」(マタイ9：22他)と。人間は意志のないロボットではありません。意志を持っています。意志を持って罪を犯すのです。救いも誰それ構わず、無意識のうちに、自動的に救われるものではありません。もちろん神さまの救いはすべての人に開かれています。しかしそれがその人にとって救いとなるのは、その人が救いを求めてあずかる時です。神さまの恵みに対する応答が求められています。そしてその応答こそ、ここで「まことの信仰」と呼ばれているものです。

**問21** まことの信仰とは何ですか。

**答** それは、神が御言葉においてわたしたちに啓示されたことすべてをわたしが真実であると確信する、その確かな認識のことだけでなく、福音を通して聖霊がわたしのうちに起こしてくださる、心からの信頼のことでもあります。それによって、他の人々のみならずこのわたしにも、罪の赦しと永遠の義と救いとが神から与えられるのです。それは全く恵みにより、ただキリストの功績によるものです。

ここでは二つのことが言われます。一つは「確かな認識」もう一つは「心からの信頼」です。その認識とは「神が御言葉においてわたしたちに啓示されたこと」と言います。御言葉、聖書において啓示されていることは、単刀直入に言えばイエス・キリストです。キリストをはっきり知ること。キリストが何をしてくださったか。ヨハネ福音書によれば「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである」(1：18)とあります。そして「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」(3：16)のです。それは十字架で命を捧げられるほどの愛です。その神さまの愛をしっかりと認識すること。すべては知ることから始まります。知らないと感じつかないし、それこそ素通りしてしまうのです。神さまから愛されていることをしっかりと認識する、そこにわたしたちの応答も生まれます。

もう一つは「心からの信頼」です。信仰は単なる知識ではありません。神さまの救いを知ったならば、そこに自分自身を託す、委ねる、心からの信頼が必要になります。しかもここで重要なことは「福音を通して聖霊がわたしのうちに起こしてくださる心からの信頼」とあります。その信頼はわたしの中から自然に沸き起こるといよりは、福音の説教を通して、聖霊がわたしの中に起こしてくださるものだということです。自分で信じることほど不確かで怪しいことはありません。信仰は自分の誠実さや熱心に裏付けられるものではないのです。助け主である聖霊が起こし、生ける神さまの御言葉によって絶えず導かれるものです。自分のことを振り返ってもそうでしょう。自分が自分の力で信じてきたとは到底思えません。神さまの助けがあるのです。ここでは「福音を通して」というのがポイントです。教会の礼拝で十字架による罪の赦

しとよみがえりの命に表された神さまの愛の御言葉を聞く。聖餐にあずかる。そこで引き戻される。自分の力で信仰は維持できるものではありません。教会生活を通して、信仰の友との交わりを通して、家族の執り成しによって、保たれるものです。つまり信仰は教会、キリストのからだの中でこそ可能なことなのです。

そこでもう一度問20に帰ってください。

**問20** それでは、アダムを通して、すべての人が墮落したのと同様に、キリストを通してすべての人が救われるのですか。

**答** いいえ。まことの信仰によってこの方と結び合わされ、そのすべての恵みを受け入れる人だけが救われるのです。

ここに重要なことが示されます。「まことの信仰によってこの方と結び合わされ、そのすべての恵みを受け入れる人」とあります。「この方」とはもちろんイエス・キリストです。信仰はキリストと一つになって初めて信仰は可能だと信仰問答は教えています。

宗教改革者マルティン・ルターは、このキリストとの結びつきについて「わたしたちはイエス・キリストと一緒に一つのケーキを作る」という表現を用いたそうです。わたしは一時期スコーン作りにはまりました。シンプルなのですが奥が深い。なかなか納得するスコーンにならない。大抵、硬くなるか、パサパサしてボロボロ崩れるスコーンになってしまう。お菓子屋さんのプロが作るスコーンはしっとり柔らかく口の中で程よく崩れて本当に美味しい。それはやはり生地練り方や材料にもよるのでしょう。材料がしっかり練られて一つになる、一体化する。信仰もキリストとしっかり結び合わされて一つにならなければいけない。簡単にボロボロ崩れてしまうような信仰にならないために、まことの信仰によってキリストとしっかり結び合わされなければいけません。練り合わされて一つになるのです。

それが指し示すことは洗礼です。洗礼を受けてキリストのからだに繋がることです。ガラテヤ書に「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです」（2：20）とありました。パウロも信仰を洗礼の恵みの中で捉えます。「神の子に対する信仰による」とあります。ここは「神の子の信仰による」とも訳すことができます。キリストの信仰です。以前、ガラテヤ書の説教した時もこのことについて触れましたが、信仰は人間単独の業ではなく、むしろキリストの中にある。キリストの信仰によって信じるのです。

信仰問答では「まことの信仰」と言いますが、わたしの中に「まことの信仰」が自然に生まれてくるはずがありません。わたしの中には罪の思いしかない。生まれつき罪に傾いているのです（問5）。けれどもわたしがキリストに結び合わされることによって、キリストの信仰、キリストの信頼がわたしの信仰になる。キリストは十字架で「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ23：46）と言われました。このキリストの神さまへの信頼に助けられて、わたしたちは神さまを信じるのです。ここが信仰の急所となります。

天の父よ。あなたが与えて下さらなければ、わたしたちの中に「まことの信仰」など生まれません。そのために独り子をくださり、その御子に結び合わされてわたしたちに信仰を与えてくださる恵みを感謝します。主の御名によって祈ります。アーメン。